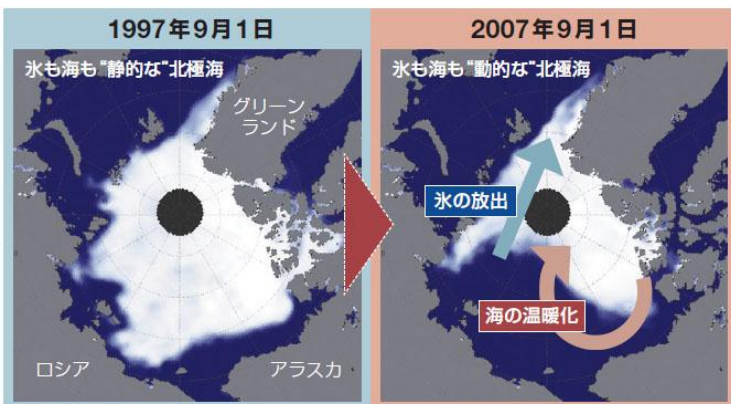


“エコの木プロジェクト”って何だ！？

地球温暖化とエコの木プロジェクト

「地球温暖化と気候変動」・・・もう知らない人はいないだろう。約200年間の化石燃料（石油や石炭）の使いすぎと、森の伐採などの自然破壊の結果、化石燃料を燃やして生じた二酸化炭素(CO2)濃度が上昇し、地球の平均気温が、急激に上昇している現象だ！！平均気温が、上昇すると、これまでの、地球の安定していた気候が狂い始め、世界中で、様々な異常気象が多発している。左の図は、昨年の北極の氷の減少。あと30年かかるだろうと言われた氷の減少が、たった1年間で起こってしまった。一度氷が解けると、



溶けた海面は、簡単には氷に戻らない。これは、これまでは白い氷が反射していた光を、青色になった海面が熱として吸収してしまうからだ。小学校の時に黒く塗った紙を使うと虫めがねの光を集めやすくなり、紙に火がつきやすくなったのを覚えているだろう。大規模な氷の融解が気候の変動の幅を大きくしているんだ。地球温暖化や気候変動を食い止めることは、もはや手遅れだという人もいる。実際そうなのかもしれない……。でも、これから大人になる子供たち、その子供たちの子供たちとその子供たちの為に、僕たちができることは、何かないだろうか？……これが“エコの木プロジェクト”のはじまり。

エコの木プロジェクトが生まれるまで

資料4

みんなで止めよう温暖化
チーム・ライオナズEX

脱温暖化 2050

2050年脱温暖化シナリオの検討
(2050年脱温暖化プロジェクト研究より)

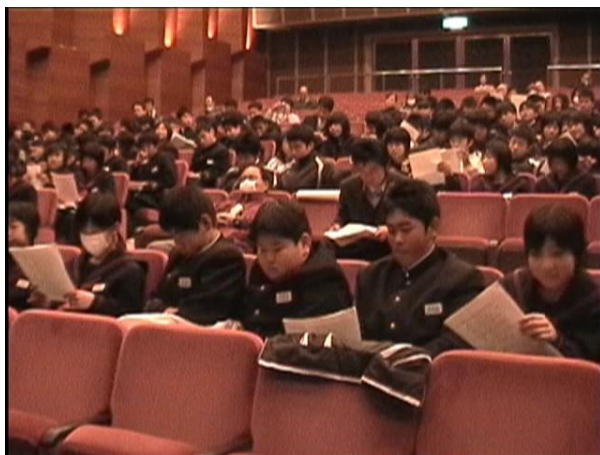
環境大臣 小池百合子
2005年6月17日

エコの木プロジェクトは、筑西市明野商工会青年部が名付け親。でも、その活動が始まるまでに、青年部のみんなはいろいろなことを勉強した。低炭素社会づくりやバックキャスト(未来の姿から今の方向性を変えること)・・・聞いたことのない言葉のメジロ押しだった。普段仕事で忙しい、僕たち大人にとって、新しいことを次々と覚えていくのは大変だ。だから、僕たちは、ゆっくりと時間をかけて学んでいった。とても大切なことだから、丁寧に時間をかけて一つひとつ勉強していく必要があるんだと思うんだ。

(資料)環境省2050年脱温暖化シナリオの検討 はじめはこのスライドから勉強を始めた。今年福田ビジョンで提示された2050年の温室効果ガス60%～80%削減の土台となったプロジェクト。2050年の日本の70%削減は、この頃から検討されていた。

たくさんのお会い

それから、何人もの人たちとも出会った。わからないことばかりだから、専門の人達に直接聞きにいくな。今は、メールが使えるから、たくさんの人たちにメールを送ったんだよ。低炭素社会という言葉を作った環境省2050脱温暖化社会プロジェクトの藤野純一さん。IPCCで、気候変動の適応策の報告書のとりまとめをされた茨城大学教授の三村信男先生。明野中の2, 3年生は1月にイルブリランテで講演をきいたよね。



(写真)明野中の皆と聞いた三村信男先生の講演会(商工会塾公開講座「地球温暖化と私たちの未来」(2008年1月))。

セヴァン＝スズキさんのスピーチを読んで

12歳の時にブラジルのリオの地球環境サミットで、大勢の大人たちを相手に、「直すことのできないものを、もう壊し続けるのはやめて下さい」とスピーチをしたセヴァン＝スズキさんのスピーチも読んだ。いろいろな人達から、わからないことを、しつたかぶりをしないで、直接おそわってきた。おかげで、商工会青年部のお兄さんやおじさん達も、温暖化について、ずいぶんいろんなことがわかるようになってきた。もちろん、まだまだ、やれることがあるってことも……。

(写真)リオでスピーチした子供環境活動ECOのメンバー。
左から2番目がセヴァン＝スズキさん当時12歳



商工会青年部で芽生え、商工会青年部が育てたエコの木プロジェクト



自転車足こぎ人力発電カキ氷マシン
「汗をかいた人だけがカキ氷を食べられます」

エコの木プロジェクトが、青年部で始まったのは、去年のひまわりフェスティバルの時。自転車発電かき氷やソーラークッカーや太陽電池のおもちゃ、小型の風量発電装置を覚えているかな？この他にも、ひまわりの油で作ったBDF(バイオディーゼル)のプラントを見学に行って勉強してきたんだよ。それで、イベントの模擬店の電気も、自分たちで考えたCO2を増やす化石燃料を使わない手作りの発電所で発電したんだよ。その後も、青年部のエコの木プロジェクトの活動は、市外活動篇として、水海道のワールドフェスタに参加したり、つくば3Eフォーラムに参加したりといろいろと取り組みを開始しているんだ。

こころに動機(エコの木)を育てよう！！

これを読んでいる、市内の中学生高校生たち、もしかしたら小学生の人たちやおじいちゃんやおばあちゃん、おかあさん、おとうさんも……。もう、「だれかがやってくれるだろうとか、どうせできっこないからやらない」なんて言い訳はやめて、何かを始めてみてください。イタリア語には、「遅くとも、しないよりはまし」ということわざがあるそうです。何もしていないよりも、たとえ遅くなってしまっても、した方が全然ましだということだそうです。ひとつ始めれば、次にやるのがすぐに見えてきます。地域の野菜を食べること、ゴミを減らすこと、電気を節約すること、エコバックを使うこと、できることがたくさんあります。

エコの木プロジェクトが他のエコプロジェクトと違う所は、自分の中に常に動機を育てていこうということ。いろいろなやり方があっても結局は、自分の中に動機がなければ結局何も始められないから……。そして「エコ」の木は、“こころの中に育つエコを目指す勇気の木”。こころの中に動機を育て、勇気を出して自分自身が変わっていくことで、未来を守り、仕事を守り、家族を守る取り組みです。

あれから4年！！……この文章は、2009年8月にあけのふれあい祭り広報誌に載せるために作った記事です。あれから、4年、私たちの活動はますます活発に継続されてきています。筑西市商工会にエコの木プロジェクト部会が発足しました。早稲田大学とブリジストンの共同事業であるW-BRIDGEで3年間の研究・活動も行ってきました。宮山公園、市役所など緑のカーテン活動もたくさんやりました。

でも、まだ、活動は始まったばかり、皆さんの世代に、次の活動をまかせられるようになるまでこれからもがんばっていきたいと思います。中学生の皆さんにも、もうすでに始められることもたくさんあると思います。楽しみながら、一緒に頑張っていきましょう！！

筑西市商工会“エコの木プロジェクト”部会